

2012年12月17日発行の各社新聞の比較（日本衆院選の取り上げられ方について）

【1】

新聞	支援する政党	キャッチコピー	一面	衆院選の記事X面	衆院選記事大見出し（1）	衆院選記事小見出し（1）
自由時報	民進党	台湾優先 自由第一	衆院選	1・3・4	1-1) 天地が引つ繰り返る—民主党(230→56)惨敗、自民党(119→293)返り咲き / 1-2) 政党がまた交代 民意に応えない政策現職閣僚たち落馬	1-1) 「雪崩の如く大勝」議席2/3を奪う、「壊滅的敗北」野田、民主党総裁を辞任、日本維新の会5/3議席獲得、第三政党となる、自民党総裁安倍、日本の首相へ再び / 1-2) 官房長官65年来初めて負ける、元首相菅直人も落選、田中真紀子議員でさえもなくなる、石原親子3人皆当選
台湾時報	民進党		美麗島駅周辺の住宅価格下落 / 衆院選	1(概要)・3	1) 日本衆議院の天地が変わった日 自民党返り咲き—安倍再度首相の座へ	1) 野田敗北を認める 民主党党首を辞める
中国時報	国民党		衆院選	1・3・4	1) 日本の天地が変わった日 自民党が政権を奪回	
聯合報	国民党		アメリカの銃乱射事件について / 衆院選 / 民族間での結婚に対する賛否について	1・3	1) 日本の天地が変わった日 自民党大勝 安倍氏將に煮直す	
旺報	中国	中国大陸を知って、世界の未来を掌握しよう	中日韓FTA、中国が受ける利益が最も低い / 衆院選	1(写真と解説のみ)・4		
経済日報			日本新政局の影響 / ノーベル賞特集 / 中国経済 / 衆院選	1・2・3	1-1) 日本新政権の効能：アジアの貨幣戦へ 来年は更に過激に / 1-2) 安倍晋三日本の首相へ—日本衆院選 自民党大勝	1-2) ・緊縮財政への対抗、貨幣の拡大、円安を目指し、日本の株価が来年には上がる、東アジアの資金流通が活性化し、台湾の株価も恩恵を受ける見込み
都会時報			衆院選 / 中国の「廉政特区」について	1	1) 日本衆院選 左向きか右向きか目をつけられる—台中日韓 四角関係の均整がとれる	

【2】 新聞	見出し (2)	小見出し (2)	見出し (3)	小見出し (4)
自由時報	<p>3-1) 中国の武装威嚇に対して不満 日本政府が右派へ / 3-2) 衆院選観察 日本人国を守る強い政党を期待 / 3-3) 安倍経済学 日本経済を奮い立たせる? / 3-4) 6年間に7回首相が変わる 選挙だけに3480万NT\$も費やした</p>	<p>3-1) 民主党、小沢派70議席に届かず、「民主党やるのが酷すぎる」 国政外交荒れに荒れた</p>	<p>4) 安倍は台湾の友といえど——許世楷曰く、日本は馬政権が中国に傾いていることさえも憂えている / 4-1) 安倍新しく組閣 日台関係に大きな変化はなし / 4-2) 安倍、二度の台湾訪問で起こった「小黃事件」※</p>	<p>4) 日台友好 共同利益の基礎を築く、安倍、官房長官時には台湾の陳水扁総統とよく連絡した、もし台湾が中国に傾いているならば日本は利益を損なうと憂える / 4-1) 「もう伝統的な角度から日本を見ることはできない」、外交部曰く、日台関係の発展は更に穏やかとなる、民進黨曰く、自民党と深い交流がある</p>
台湾時報	<p>3) 日本民主党敗選 李嘉進：民衆の怨み爆発——3・11地震、原発 政党の執行が無能を表し、国民の生活が苦しいところまで至る 増税しないのも、増税するのも支持を得ず、苦境が露呈 / 3-1) 緑※曰く、日台関係がより良くなることを期待 / 3-2) 安倍親台派 馬総統との関係も良好 / 3-3) 学者曰く、尖閣諸島問題の解決の助けになる / 3-4) 日系企業が台湾へ投資するよう引き込む / 3-5) 日台関係は変わらず穏やかだが、尖閣諸島が唯一のリスク</p>	<p>3) 自民党経済政策、企業の支持を得る / 3-2) 日米台の首相会谈ができないなんてオカシイ</p>		
中国時報	<p>3-1) 自民党煮直し(※1) 挑戦は始まったばかり——経済は衰退し、外交は困難が過多、ねじれ国会に臨む 安倍氏は経済問題と日米連携に一生懸命取り組むことができるか 観察する価値がある / 3-2) 維新の会が表に出、民主党を間近に迫る</p>	<p>3-1) 古いメンツが落馬(※2)、民主党惨敗 / 3-2) 一年に首相、制度がコロコロ変わってしまった、有権者冷え込む、投票率が59.7%と更新、原発反対の旗を高く掲げるも、未来の党の流れにならず</p>	<p>4) 安倍氏将に再任す 日台関係は特に変化なし</p>	<p>4) 安倍氏何度も訪台 青(※3) 緑とも友好、刺客落馬! 小沢チルドレン全滅</p>
聯合報	<p>3-1) 鷹派首相安倍氏、日本政治が右へ方向転換することを宣言——対外政策、外交では主張を強く持ち、中国を抑制する 国内政策、「一本のムチ」をもって実権を掌握できるか、「ねじれ国会」を正せるか / 3-2) 安倍経済学 円安を促す——日銀に対して寛容な戦略を探る / 3-3) 日中韓諸島をめぐる火はまだ燃える——日台関係は更に緊密となる 対話が重要</p>	<p>3-1) 靖国神社参拝、首相の座を取ると萎縮する?、政治は依然として乱れる?、来年の参議院選挙 / 3-3) 台湾外交部曰く、日台関係は更に穏やかになるとの見解</p>		
旺報	<p>4) 日本国会衆院選 自民党、全議席の2/3に登る——日本政権が変わった日、安倍晋三、首相の任を将に煮直す 4-1) 日本専門家が提言する 日中両国の領土問題を取り除く方法 / 《社説》安倍氏はアンフルサム※を頼るべき</p>	<p>4) 政党を率いた大物が落馬、日本メディアが中国朝鮮を批難したことが助けに</p>		
経済日報	<p>2-1) 自民党の勝利 勢いが激しく猛烈である——鷹派の安倍氏、まさに二度目の首相の座へ 日銀への圧力増大 早くも今週から新貨幣政策が出るか / 2-2) 学者曰く、来年には日本の株価が膨張する</p>	<p>2-1) 安倍経済学 袋小路には行かない、7ヶ月後に中間テスト、約束を守らない民主党 有権者を逃す</p>	<p>3-1) 安倍氏親台 4大産業方向転換——日台合作を強めることで、半導体・機械・テレビや車の零細企業が恩恵を受ける / 3-2) アジアの株に火がつく</p>	<p>3-1) 日本と連携して韓国に対抗 サービス業に及ぶ、鴻夏恋曰く、選挙後の観察が指標となる、三三会曰く、想法の関係はさらに良くなる</p>
都会時報				

【3】 新聞	論点	気づいた点 (感想)	備考
自由時報	○右傾化 ○公明党の座に日本維新の会がつく可能性 ○自民党の勢い ○選挙制度 ○日台関係に前向きに期待	政権および政治色が大きく変化した(するであろう)ことによつて、台湾も日本という国を再認識する必要があると4面て説いていた。震災後の日本、中国の脅威にさらされる日本、高齢化社会の日本を見直すべき、日本もまた台湾をいろいろな角度から見て欲しいと述べていた。また、親台派の安倍氏を強調し賛美する記事のしたには、馬政権の改革不足に対する記事がのつていた。	※「小黄事件」：2010年10月末に安倍氏が訪台時、馬總統を除いて、李登輝元總統と当時民進黨主席の蔡英文と会談。会談後に安倍氏をタフシーに載せるという失礼を働いてしまったことから事件と呼ばれる。岸信夫曰く、安倍氏は私用で民進黨幹部と会ったことだから構わないとのこと。
台湾時報	○右傾化 ○安倍氏の人柄 (前回の首相時のこと、台湾行政では「友台派」とよばれていることなど)	中央社とテレビ朝日の統計値などを引用している。石原慎太郎氏を「日本の右派代表人物」と呼んでいる。民主党が尖閣諸島を国有化したことを引き合いに出した上で、今回の大敗ぶりには「目も当てられない(輸得難看)」と表現されている。前回の安倍氏の退任理由(潰瘍性大腸炎)について言及している。以上のことが一面で目についての表現である。けて日本に対して好印象を持つとは思えない。しかし、3面へとつづくと、安倍氏が台湾の馬總統との関係も良好、「友台派」と呼んでいたりと前向きな文言がなるが。「台湾時報」は親日派の民进党支持のため、今回の衆院選結果について賛同しているのかと思えば、むしろ冷めた表現で書かれていたのが意外であった。	※緑：民進黨を指す。
中国時報	○将来は右傾化するだろうか ○中国との関係はどのように発展するだろうか	一面には、自民党が三年前に大敗し、そこから舞い戻ってきた(這い上がってきた)というニュアンスで書かれている。またこれからの課題(経済衰退からの脱却、あたらしい日本へ向かうことなど)が実現できるか観察しよう、と期待しているように思えるが、実はそうではない。「(課題解決について)口にするのは簡単だけれども、失われた20年の日本経済を立て直すことはそう簡単なことではない」と厳しい見解がつかう。また、右傾化においては、冒険主義・排他主義に向かえば日本は危険にさらされてしまうとも指摘。それに合わせて、日本ではすっかり影の薄くなった小沢一郎氏がかつて自民党の教育政策が民族主義的であると指摘したことも載せている。そして維新の会・石原慎太郎氏のことでも大きく取り上げられており、右傾化を強調している印象を持つ。また、右傾化するのも「普通(正常)」の傾向であるとし、すでに右傾化が決定しているかのようにも思わせる。	※1 煮直す：原版では「回鍋」。直訳すると、鍋に戻して煮出すということ。意識すると、振り返きとなる。直訳と意識のあいだをとって「煮直す」とした。 / ※2 落馬：落選ということ。落選よりも哀愁が漂うことからそのまま採用。 / ※3 青：国民党を指す。
聯合報	○日米関係 ○右傾化する ○東アジアの関係の変化	新聞各社の中で唯一自民党のスローガン「日本を、取り戻す」の文言に言及していた。三面の題字からして、日本政治が右傾化しますと宣言したかのように書かれている。日本のマイナス面をならべた後、三面の最後(3-3)では日中韓の関係は引き続き冷え込むが、日台関係は更に良くなるかと指摘している。日米関係の維持に於いても台湾の地位というものも重要打との見解を示している。他の記事に比べ、安倍氏の人柄についての鷹派というだけで言及が少ないように思える。	
旺報	○国会議員の入れ替え ○日中間 ○FTA問題 (日中韓)	他の記事と違い、尖閣諸島について言及したときに、国有化後中国の「公務船」が領海侵犯したことを示し、中国の反日を伝えている。ただ気になったことは都会時報は「台中日韓」と表現しているが、旺報は「日中韓」と表記しており、台湾に対する政治的見解が伺える。(4-1)内にこんな興味深い文章がある。「(日本共同社の客席論説委員岡田充は言う、)北京からの情報によると、大陸(中国)としては自民党が今回の衆院選で勝ったのはまだ良い方だ、もし民主党野田政権がひきつづき居坐っていたら、日中関係は最悪の状況に追い込まれていたであろう」	※アンクルサム【Uncle Sam】：アメリカ政府を指す。
経済日報	○欧米の金融緩和の例から考察 ○安倍氏の経済学 ○日本株値の予想 ○台湾国内産業が恩恵を受ける	「安倍氏の立場は鷹派で民主主義の傾向があることで受け入れられていないと言えど、そこが魅力でもある(2-1)」とほめた上で、後に続く記事はほとんど経済的に前向きな発言がつかう。ただ安倍経済学は良い効果はあれど継続的に続くかは不透明で反動というリスクもあると指摘。興味深いのは、二面の下の方の「日本民主党が墓穴を掘って失敗した原因」として経済的な面から民主党の失態を分析している。金融だけでなく、零細企業から前向きな言葉続いた。とくに「日台産業合作計画」をリストアップしていることから、日台関係への期待が伺える。	
都会時報	○「脱左派化」 ○民主党の外交の失敗例 ○国防軍・日米関係強化など安全保障について (野田佳彦氏が安倍氏に戦前回帰の危機を表明していたことを掲載) ○憲法改正	右傾化ではなく、脱左派化(脱左化)という表現を用いていた。さらに備考にあるように、この選挙を契機に戦争へ傾くことはないかと明示している。 / 公務員を尖閣諸島に常駐させる案というのはマニフェスト (http://jimin.ncss.nifty.com/pdf/seisaku_ichiban24.pdf) にあったのだろうか。もしかしら、「領海警備法」を指しているのかもしれない。	本文引用「(東京大学の松田安広教授は、)日本が右傾化しているのかという問題において、先に右傾化とはどのように定義するかということを見る必要がある。中国語での解釈では、右傾化とはアメリカ寄りになり中華民国(台湾)へ侵略する、軍国主義、軍力拡大、天皇崇拜ということを指す。しかしこの4点は現時点日本には存在しない。石原さえも戦争を主張してはいない」